



# 12月の園だより

令和5年12月1日  
目黒区立鷹番保育園園長



毎年恒例のお楽しみ会を行いました。乳児お楽しみ会では「とんでったバナナ」のパネルシアターと「3匹のやぎのがらがらどん」の人形劇を楽しみました。パネルシアターを見ながら手拍子をして一緒に歌っている姿が印象的でした。人形劇ではトロールを保育士が演じていて、どこからどう見ても担任のひとりなのですが、わかっていても少し怖いという表情があり、一緒に見ている保育士の後ろに隠れたりマットに顔を伏せて見ないようにしている子もいました。それでも最後にはがらがらどんの人形に触れ、お別れをして会を終えました。その後の遊びではがらがらどんごっこで盛り上がるなど、印象に残ったようです。幼児お楽しみ会は職員による劇「金のガチョウ」と「楽しいね」の歌と合奏です。ストーリーに入り込み、笑ったり照れたり楽しんでいました。会が終わると劇中歌を口ずさんで劇の再現をしたり、金のガチョウの絵本を読んだりしていました。合奏で使った楽器を保育室に置いてみると、すぐに音を鳴らして楽しむ姿がありました。自分たちも大きくなったね会で劇や合奏など演じることを楽しみにしている様子です。

年長児は小学校に行き就学時検診を受けることで、就学への期待が高まってきているようです。午睡もなくなり一歩ずつ小学生へと近づいています。期待とともに不安も見られるようになってくるのも自然なことです。子どもだけではなく保護者の方の不安も取り除けるよう全職員で受け止めてまいります。残りの保育園生活を目一杯楽しく過ごしていきたいと思います。

## 行事予定

大きくなったね会  
5歳児クラス懇談会  
ポニー教室

身体計測  
避難訓練

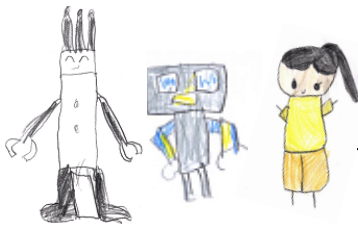
保育園は  
12月29日(金)から1月3日(水)  
までお休みです。

## 『またやりたい』

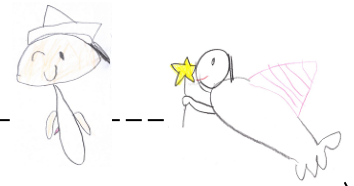
## 異年齢の関わり

園庭で遊んでいる時、うさぎ組の子がボールを持って滑り台へ行き、斜面を転がそうとしていました。しかし滑り台の下には友達がたくさんいてそのまま転がすと友達にボールが当たってしまいます。保育士がそのことを説明していると、近くにいたきりん組の子が「どうしたの?」と気にかけてくれました。保育士がうさぎ組の子のやりたい気持ちを代弁すると、2段重なっているタイヤに戸板を立てかけて滑り台を作ってくれました。「〇〇ちゃんできたよ」ときりん組の子が知らせるとうさぎ組の子がその斜面にボールを転がし、今度は自分がその戸板を滑っています。「〇〇ちゃんすごいね」と一緒になって喜んでいたきりん組の子がタイヤに座ると、うさぎ組の子も真似をしてタイヤの上に座って満足そうに笑っていました。そしてまた別の日、園庭で遊んでいると一段のタイヤに戸板がたてかけられているのをうさぎ組の子が発見しました。先日のことを思い出すようにじっと見えています。その場を離れたのでボールを取りに行くのかと思い見守っていると、重いタイヤを一生懸命運んでいました。どうやら先日きりん組の子が作ってくれた滑り台のようにもう一段高いタイヤにしたかっただけです。保育士と一緒に持ち上げて重ねると、また満足そうにボールを転がしたり、自分でも滑って遊んでいました。

きりん組の子も自分が小さかったころ同じように年上の友達に優しく関わってもらえた経験があるからこそ、年長となった今、年下の子に親身になって接しているのだと思います。うさぎ組の子にとっても、自分のやりたい気持ちを汲み取ってもらいながら一緒に楽しく遊べた経験が、日をまたいで“またやりたい”という意欲につながっていました。これからも異年齢の刺激を受けながら学び合う子どもたちを見守っていききたいと思います。



## 大きくなったね会に向けて



『劇づくり』

5歳児 きりん組

自分たちがやる劇はどんな物語にしたいか子どもたちに聞いてみると、今までに読んできた絵本やお楽しみ会で観た大人の劇などを参考にしながら様々な意見が出てきました。動物やお化け、ロボットなど本当に様々な世界観ではありましたが、共通点や繋がりを見つけてまとめてみると何となく物語になっていて、それを保育士が読んでみると「いいね」「あ、ここは私の意見だ」「これはお友達の意見だね」と、自分たちのやりたかったイメージが形となっていくことを喜んでいました。“動物と友達になりたい”“みんなで冒険に行きたい”“虹が案内してくれたら嬉しい”などと、話し合いを重ねていくごとにイメージが膨らみ、劇の練習が始まってからも自分たちでセリフを考えたり道具を作ったりしていくことを意欲的に楽しんでいました。道具作りでは「この場面には車が必要だね」と一人が言うと、もう一人が「こんな感じの車はどう」と、すぐにデザインを描き始め、それを見た子が「じゃあ段ボールで作ろうよ」と、アイデアを出しています。一人ひとりが自分の得意なところで協力しようとする姿が見られ、また、友達が作っている様子を見て「すごくいいね」「上手じゃん」と、認め合いながら道具や衣装も子どもたちの力で完成していきました。これまで経験してきたことが積み重なって力になり、認められてきたことでさらに自信となっている子どもたちが、みんなで劇を作り上げることを楽しんでいきます。



## ごっこ遊びの様子



『ハッピーバースデー』

2歳児 うさぎ組

「ねえ、プレゼントがあるよ」と保育士に声を掛け「こっちのテーブルに来て」とエスコートしてくれます。「ケーキがあるよ」とお鍋を逆さにひっくり返し、そこにチェーンリングで飾りつけたケーキが目の前に置かれ誕生日会が始まりました。ハッピーバースデーの歌で祝った後「はいプレゼント」とハンカチでラッピングしたおもちゃを手渡してくれました。「ありがとう」と受け取ると「今度は私の番ね」と自分の誕生日となりパーティーが続きます。様子を見ていた友達が今度はメニュー表を見て「どのケーキ作ろうかな。このケーキにしようかな」と作り始め、カラフルなチェーンリングで飾りつけたケーキが完成しました。そして「もう1回歌おう」とみんなで誕生日のお祝いをしました。

次の日もメニューを見て「フルーツケーキ作るね」とケーキを作り「みんなで食べよう」「フォークがいるよね」「あっお茶も作ろう」と友達を誘い合い楽しんでいる姿が見られました。自分の発想やイメージを保育士に知らせ、一緒に遊ぶことでその楽しさが友達にも伝わりごっこ遊びが広がってきています。今後も子どもたちのイメージや発想に寄り添いながら実現の手助けをし、友達とも共有してさらに楽しんでいきたいと思えます。